

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	哲学
担当者 資格、役職等	大学助教	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b></p> <p>(1) 哲学の問いについて概要を把握することを目指す。</p> <p>(2) 哲学の問いについて歴史的な展開を概観できるようになる。</p> <p>(3) 哲学の問いについて自分なりに考えを深めることを目指す。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>(1) 哲学の問いについて概要を把握する。</p> <p>(2) 哲学の問いについて歴史的な展開を概観する。</p> <p>(3) 哲学の問いについて自分なりに応答を探る。</p>		
授業計画	<p>第1回 授業予定と方針、哲学を哲学する</p> <p>第2回 古代ギリシャの哲学(1)：ソクラテスと対話</p> <p>第3回 古代ギリシャの哲学(2)：プラトンと社会</p> <p>第4回 古代ギリシャの哲学(3)：アリストテレスと倫理</p> <p>第5回 中世の哲学：アウグスティヌスと宗教哲学</p> <p>第6回 近代哲学(1)：デカルトと大陸合理論</p> <p>第7回 近代哲学(2)：ロックとイギリス経験論</p> <p>第8回 近代哲学(3)：カントと観念論</p> <p>第9回 現代哲学(1)：ニーチェとルサンチマン</p> <p>第10回 現代哲学(2)：ハイデガー、アーレントと存在論</p> <p>第11回 現代哲学(3)：ロールズと正義論</p> <p>第12回 応用哲学(1)：動物と人間</p> <p>第13回 応用哲学(2)：情報と人間</p> <p>第14回 応用哲学(3)：看護と人間</p> <p>第15回 期末試験</p>		
教科書	特になし		
参考書	授業において適宜示す		
評価の方法	授業ワークシート(小レポート)50%、期末試験50% 60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学助教が哲学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	教育学
担当者 資格、役職等	元大学教授	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>①「学びの3つの柱」を通して、自分がこれまで小・中・高校時代に取り組んだ学習方法を振り返り、学習を通してどのような自己形成を成し遂げてきたか、を振り返る。</p> <p>②本校において、将来への目的意識を明確に持ち、主体的に学習・研究する態度を身に付ける。</p> <p>③教育学と医学の両面から人間形成について考察し、人間観・倫理観の深化を図る。</p> <p>【概要】この教科書は、これから保健医療の高度専門職を目指す皆さんを念頭において執筆しました。各回のタイトルの講を事前に読んでください。その講の中で心に残った箇所を引用して、200字原稿用紙に考察を書いてください。書き足りない場合は、裏に続けて書きます。ペア学習を行い、一言コメントを欄外に書いて提出します。次回に、教員のコメントを書いて返却します。事後学習の課題は、授業中に提示します。200字原稿用紙の裏面に書いてください。</p>		
授業計画	<p>【第1回】 授業の進め方、人間形成の産屋、三つ子の魂が築かれる家庭教育</p> <p>【第2回】 人間性の座、「血・情・意」を司る大脳前頭前野</p> <p>【第3回】 「学びの3つの柱」と人間形成、生涯学習社会とリカレント教育</p> <p>【第4回】 「主体的・対話的で深い学び」を具現化する学習方法</p> <p>【第5回】 学習の原理—直観・自発性・内発的動機付け・練習（ドリル）—</p> <p>【第6回】 聖徳太子の「十七条の憲法」—人間性の善と悪—</p> <p>【第7回】 貝原益軒の道德教育論と養生思想、益軒の「医箴」</p> <p>【第8回】 二宮尊徳の実学思想に基く人格形成</p> <p>【第9回】 ヒポクラテスと『サレルノ養生訓』、自然の食餌法（摂生法）</p> <p>【第10回】 『塵劫記』の「三容器の協力関係」と「いじめ問題」への対応</p> <p>【第11回】 「田定規」を作図する、科学的思考の第一歩</p> <p>【第12回】 人間形成における“もの”と“こころ”の相即の妙—物心一如—</p> <p>【第13回】 看護師（高度専門職）に求められる「事情錬磨」</p> <p>【第14回】 親鸞・道元・日蓮にみる「知・情・意」の教育者像</p> <p>【第15回】 800字小論文試験、人間形成的考察</p>		
教科書	土井進（2022）『保健医療従事者のための「教育学」』 株式会社医療タイムス社		
参考書	必要に応じてプリントを配布します。		
評価の方法	事前・事後学習200字原稿（3点×14回＝42点）、小論文（58点） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授が教育学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	基礎分野	授業科目	文化人類学
担当者 資格、役職等	元大学教授	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 文化人類学は自己と他者、自文化と他文化との差異を探求しながら、自己(自文化)中心的な発想を脱して、異文化を理解しようとする学問である。「人間とは何か」という根源的な問いを「気づきのための学問」としての文化人類学の視点から探求することが目標である。</p> <p><b>【概要】</b> 家族と親族、親族と結婚、性と文化表象、生と死、儀礼と象徴などの基礎的な人類学概念を学ぶとともに、医療人類学、異文化間介護、国際協力と医療活動までの人類学的「知」の体験を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 文化人類学と看護学 第2回 家族①－家族概念と家族関係語彙 第3回 家族②－生殖と親子 第4回 家族③－結婚と親族 第5回 ジェンダーとセクシュアリティ 第6回 生業経済の諸類型（狩猟・採集、農耕、牧畜） 第7回 コミュニティとアソシエーション 第8回 民族と国家/民族と紛争 第9回 人生と通過儀礼①－通過儀礼と境界理論 第10回 人生と通過儀礼②－儀礼の構造と理論 第11回 宗教とコスモロジー①－呪術、宗教、科学 第12回 宗教とコスモロジー②－憑依とトランス状態 第13回 病と治療/生と死と再生 第14回 質的研究とエスノグラフィー 第15回 期末試験</p>		
教科書	『系統看護学講座 基礎分野 文化人類学』医学書院		
参考書	授業の際に配布する		
評価の方法	平常点30%、レポート20%、期末試験50% 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	元大学教授が文化人類学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	基礎分野	授業科目	人間工学
担当者 資格、役職等	大学准教授	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 人と道具・機械・環境との関わり方を知り、主に物理学・心理学の観点から看護・介護への活用を学ぶ。また看護・介護の現場のみならず日常生活にも必要とされる数学・理科についても学ぶ。</p> <p>【概要】 患者などに優しく医療従事者の手助けになる技術・医用工学（ME; Medical Engineering）機器、人間の能力に相応しい用具・環境の条件を知り、看護の立場からの快適な仕事場や住まい、高齢者に優しい環境、ボディメカニクス、ヒューマンエラー・ストレス対策について、物理学・心理学などの観点から学ぶ。またベクトルなど人間工学で必要不可欠な数学も取り扱い、かつ看護・介護の現場のみならず日常生活でも頻繁に使う算数や、簡単な理科も理解するよう学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 人間工学と看護人間工学（看護になぜ人間工学が必要か）  第2回 安全工学（事故が起きる要因とその対策）、小テスト①  第3回 人間工学に必要な数学Ⅰ（四則演算、分数の計算）【演習Ⅰ】  第4回 感覚器官（五感に代表される感覚器官とその限界）  第5回 脳と心（ヒューマンエラーとストレス対策）  第6回 効果器（手足の役割と力の発生）、小テスト②  第7回 姿勢と動作（安定性、支持基底面、重心）  第8回 人間工学に必要な数学Ⅱ（三角関数、ベクトル）【演習Ⅱ】  第9回 ボディメカニクス基礎Ⅰ（重力、運動法則、テコの原理）  第10回 ボディメカニクス基礎Ⅱ（モーメント、摩擦等）小テスト③  第11回 ボディメカニクス演習（実習室において実技）【演習Ⅲ】  第12回 看護と工学技術Ⅰ（医療における電気電子・情報・機械の技術）  第13回 看護と工学技術Ⅱ（ME機器の動作と取り扱い等）小テスト④  第14回 まとめ（小テストの解説等）  第15回 最終試験</p>		
教科書	なし		
参考書	<p>[1] 大河原千鶴子, 酒井一博 編集: 看護の人間工学, 医歯薬出版, ISBN 4-263-23380-8</p> <p>[2] 小川鑛一 著: 基礎人間工学, 東京電機大学出版, ISBN4-501-41480-4</p>		
評価の方法	小テスト①～④および最終試験で総合的に評価する 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学准教授が人間工学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	演習
分野	基礎分野	授業科目	保健体育Ⅱ
担当者 資格、役職等	大学講師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> スポーツを集団で実践する楽しさを感じ取り、互いに協力し合いながら取り組むことの大切さを理解する。</p> <p><b>【概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「スポーツの面白さとは何か」について実践的に思考する。</li> <li>・スポーツ実践に必要とされる「集団の力」を体感する。</li> <li>・義務⇔権利という構図から外れて、スポーツを主体的に取り組む姿勢を身につける。</li> </ul>		
授業計画	<p>第1回 9/19 ガイダンス、ニュースポーツ【サンライフ】</p> <p>第2回 9/26 シッティング・バレーボール【サンライフ】</p> <p>第3回 10/10 マレットゴルフ①【犀川マレットゴルフ場】</p> <p>第4回 10/17 マレットゴルフ②【犀川マレットゴルフ場】</p> <p>第5回 10/24 ユニホッケー【サンライフ】</p> <p>第6回 10/31 インディカ【サンライフ】</p> <p>第7回 11/21 ソフト・バレーボール【サンライフ】</p> <p>第8回 11/28 ボッチャ【サンライフ】</p>		
教科書	特に無し		
参考書	不要		
評価の方法	スポーツへの取り組み方や集団活動における協調性を総合的に判断 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	大学講師が保健体育について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	薬理学Ⅱ
担当者 資格、役職等	薬剤師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 薬剤の種類と働きを理解し、薬物療法における基礎的知識を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 各疾病の治療薬について、その作用機序と分類、使い方、副作用・相互作用を理解する。さらに臨床での看護上の留意点を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 中枢神経系作用薬（精神機能）：神経症、統合失調症、てんかん、認知症</p> <p>第2回 循環器系作用薬：降圧薬、循環器薬、腎臓作用薬、血液作用薬</p> <p>第3回 ・抗炎症薬：治療薬 ・呼吸器系作用薬：呼吸器感染症、気管支喘息、慢性呼吸不全 睡眠時無呼吸症候群、びまん性汎細気管支炎</p> <p>第4回 消化器系作用薬：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、食欲不振、消化不良 嘔吐、便秘、下痢</p> <p>第5回 ホルモン・生殖器系作用薬：ホルモン系作用薬、生殖器系作用薬</p> <p>第6回 抗感染症薬：抗生物質、消毒薬</p> <p>第7回 抗悪性腫瘍薬：基礎知識、抗ガン剤分類</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	わかりやすい薬理学 ノーベルHIROKAWA		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	薬剤師が薬理学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅴ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	運動器分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>脳・神経系の構造及び機能の破綻としての病態・検査・治療を理解する。</p> <p>【概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 脳・神経系のしくみと働き、主な症状</li> <li>2. 脳・神経系の検査、病態、治療について、分かりやすい講義を行う。</li> </ol>		
授業計画	<p>第1回 脳・神経系のしくみと働き（1）</p> <p>第2回 脳・神経系のしくみと働き（2）</p> <p>第3回 脳・神経系の主な症状</p> <p>第4回 脳・神経系の検査</p> <p>第5回 脳・神経系疾患の病態と治療（1）</p> <p>第6回 脳・神経系疾患の病態と治療（2）</p> <p>第7回 脳・神経系疾患の病態と治療（3）</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑥ 脳・神経 メヂカルフレンド社		
参考書	レビューブック		
評価の方法	授業参加度・試験50点分（運動器分野とあわせて評価する） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	脳神経外科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学Ⅴ
担当者 資格、役職等	医師・医師	履修年次 及び学期	2年次 前期～後期
単位数	脳神経分野と合わせて1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 運動器疾患の病態、検査、治療について学ぶ</p> <p>【概要】 運動器疾患患者の診療、そして患者の日常生活への復帰支援、自立支援にあたって運動器疾患看護は重要な役割を担っている。しかしながら、正しい知識なしでは効果的な看護はできないどころか害になることすらある。ここでは運動器疾患看護に必要な不可欠な運動器疾患の基礎知識を学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 運動器の構造と機能</p> <p>第2回 運動器疾患の症状と病態生理</p> <p>第3回 運動器疾患の診断、検査と治療、処置</p> <p>第4回 外傷性の運動器疾患と診療</p> <p>第5回 先天性疾患、炎症性疾患、腫瘍性疾患、代謝性疾患</p> <p>第6回 部位別の運動器疾患Ⅰ（神経の疾患、脊椎の疾患）</p> <p>第7回 部位別の運動器疾患Ⅱ（筋・腱の疾患、上肢・下肢の疾患）</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑩ 運動器 メヂカルフレンド社		
参考書	標準整形外科学（医学書院）、今日の整形外科治療指針（医学書院）		
評価の方法	授業参加度、試験50点分（脳神経分野とあわせて評価する） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	整形外科医師（2名）が病態学について教育する科目		



学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学VI
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	感覚器・皮膚分野と合わせて 1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 腎・泌尿器系、生殖器系の解剖、機能を理解する。さらにそれらの障害によって生じる病態に対して、診断・治療・看護につき習得する。</p> <p><b>【概要】</b> 腎・泌尿器・生殖器の疾患について学び、専門性の高いこれらの領域における看護に対応できるように、病態、検査、治療に対する理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 腎、泌尿器、生殖器（男性）の解剖と機能</p> <p>第2回 腎・泌尿器系の主な症状と検査法</p> <p>第3回 腎、泌尿器系疾患の病態と治療（1）</p> <p>第4回 腎、泌尿器系疾患の病態と治療（2）</p> <p>第5回 腎、泌尿器系疾患の病態と治療（3）</p> <p>第6回 生殖器の主な症状と検査法、病態と治療</p> <p>第7回 生殖器の主な症状と検査法、病態と治療</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	成人看護学⑦ 腎・泌尿器 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度、試験50点分（感覚器、皮膚分野とあわせて評価をする） 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	泌尿器科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	病態学VI
担当者 資格、役職等	医師・医師 医師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	腎泌尿器分野と合わせて 1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>各種感覚器の構造と機能の理解を基礎とし、検査・診断から治療までの過程を把握する。</p> <p>【概要】</p> <p>感覚器系はその生体機能に対応した特殊な形態・構造を有する。各感覚器に特有の構造と機能を理解し、これを基礎として症状・検査法・主要疾患の病態・治療法の概略を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 眼科：眼の構造と機能、症状、検査 主な眼疾患の病態と治療Ⅰ</p> <p>第2回 眼科：主な眼疾患の病態と治療Ⅱ</p> <p>第3回 皮膚科：皮膚の構造と機能、症状、検査 主な皮膚疾患の病態と治療Ⅰ</p> <p>第4回 皮膚科：主な皮膚疾患の病態と治療Ⅱ</p> <p>第5回 耳鼻咽喉科：耳の構造と機能、症状、検査、主な耳疾患の病態と治療</p> <p>第6回 耳鼻咽喉科：鼻の構造と機能、症状、検査、主な鼻疾患の病態と治療</p> <p>第7回 耳鼻咽喉科： //</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学⑫ 皮膚・眼</p> <p>成人看護学⑬ 耳鼻咽喉・歯・口腔 メヂカルフレンド社</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度、試験50点分</p> <p>配点：眼科15点、皮膚科15点、耳鼻咽喉科20点</p> <p>合計60点以上を合格とする。（腎泌尿器分野とあわせて評価する）</p>		
授業科目 の教育内容	眼科医師及び皮膚科医師、耳鼻咽喉科医師が病態学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学 I
担当者 資格、役職等	保健所長	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 看護の対象となる人々の健康支援を、政治的・法的・衛生・福祉の側面より理解し、実践する能力を学ぶ。</p> <p>【概要】 公衆衛生は、生活者の健康増進を目的とし、個々の疾病予防に対するアプローチと共に、社会、経済、文化等と密接に関連した住民の健康増進の具体的活動を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 公衆衛生の理念(目的とその方法)</p> <p>第2回 公衆衛生の理念(権利とPHC)</p> <p>第3回 公衆衛生の技術(疫学、健康教育)</p> <p>第4回 医療の動向と医療保障</p> <p>第5回 公衆衛生と国際化</p> <p>第6回 地域保健</p> <p>第7回 母子保健</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②公衆衛生 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	保健所長が公衆衛生学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学Ⅱ
担当者 資格、役職等	保健所長	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>看護の対象となる人々の健康支援を、政治的・法的・衛生・福祉の側面より理解し、実践する能力を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>公衆衛生は、生活者の健康増進を目的とし、個々の疾病予防に対するアプローチと共に、社会、経済、文化等と密接に関連した住民の健康増進の具体的活動について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 学校保健</p> <p>第2回 成人・老人保健</p> <p>第3回 精神保健</p> <p>第4回 難病保健</p> <p>第5回 生活環境</p> <p>第6回 産業保健</p> <p>第7回 感染症・危機管理</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②公衆衛生 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験・課題提出 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	保健所長が公衆衛生学について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	社会福祉 I
担当者 資格、役職等	社会福祉士	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 社会福祉の意義、動向を学び、社会保険制度の実際について理解する。また社会保障と看護との関連についても理解する。</p> <p>【概要】 社会福祉の基本的な考え方を理解した上で、社会保障制度の実際を、医療保険、介護保険を中心に体系的に学び、具体的な保障内を知る。</p>		
授業計画	<p>第1回 社会福祉の概念</p> <p>第2回 社会保障とは</p> <p>第3回 社会保障制度の実際 医療保険制度</p> <p>第4回           "                   老人保健制度、公費負担医療制度</p> <p>第5回           "                   保健医療制度、医療供給体制</p> <p>第6回           "                   介護保険制度</p> <p>第7回           "                   年金保険制度、労働保険制度</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③社会福祉 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度、試験。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	社会福祉士が社会福祉について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門基礎分野	授業科目	社会福祉Ⅱ
担当者 資格、役職等	社会福祉士	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 社会福祉の諸制度を学び、社会福祉のシステム、援助方法、社会資源の活用方法を理解する。</p> <p><b>【概要】</b> 社会福祉の各分野について現在のかかえている課題と実態を知り具体的な施策について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 社会福祉の諸制度と施策 生活保護</p> <p>第2回         "                                    児童福祉</p> <p>第3回         "                                    障害者福祉</p> <p>第4回         "                                    "</p> <p>第5回         "                                    高齢者福祉</p> <p>第6回 社会福祉行政</p> <p>第7回 社会保障の動向</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度③社会福祉 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度、試験。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	社会福祉士が社会福祉について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	共通基礎看護技術Ⅱ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験16年)	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 事例患者を設定し、看護援助の必要性を考え計画、実施する。 演習を通して既習の基礎看護技術の「組み合わせ」や「統合」について考え、まとまりとして看護援助を行う技術を習得する。</p> <p><b>【概要】</b> 共通基礎看護技術Ⅱでは、基礎看護学援助論で習得した基礎看護技術を踏まえ、患者の状況や場面に合わせて、より安楽・安全に看護援助を提供するための力を習得する。</p>		
授業計画	<p>1. 共通基礎看護技術Ⅱの位置づけ 共通基礎看護技術Ⅱで行う演習の内容と方法 事例患者紹介①② 講義・演習</p> <p>2. 演習Ⅰ 事例①のアセスメント・援助計画立案・実施 演習</p> <p>3. //</p> <p>4. 演習Ⅱ 事例②のアセスメント・援助計画立案・実施 演習</p> <p>5. //</p> <p>6. 演習Ⅲ 事例①②の看護援助の実施と振り返り 演習</p> <p>7. //</p> <p>8. 筆記試験</p>		
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術③ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ メディカ出版		
参考書	看護がみえる① 基礎看護技術 メディックメディア		
評価の方法	演習の振り返り、出席状況による総合評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が共通基礎看護技術について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	ヘルスアセスメントⅡ
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験10年)	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術を習得する。</p> <p>【概要】 看護が対象とする人々の健康状態を身体的・精神的・社会的に査定する総合的な視点(ヘルスアセスメント)の基礎を学ぶ。 フィジカルイグザミネーションから得た情報をアセスメントし、看護援助につなげる基礎技術を学ぶ。看護の道具は自分自身をキーワードに気づきを大切にしていく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィジカルアセスメントとは</li> <li>2. フィジカルアセスメントの基本技術</li> <li>3. 呼吸器系のフィジカルアセスメント</li> <li>4.                                 "</li> <li>5. 循環器系のフィジカルアセスメント</li> <li>6.                                 "</li> <li>7. 消化器系のフィジカルアセスメント</li> <li>8.                                 "</li> <li>9. 脳神経・感覚器・運動機能のフィジカルアセスメント</li> <li>10.                                "</li> <li>11. 友人Aさんのフィジカルアセスメント</li> <li>12. フィジカルアセスメントの活用</li> <li>13. フィジカルアセスメントのトレーニング</li> <li>14. その場面、状況での気づきから情報収集、フィジカルアセスメントにつなげていく</li> <li>15. 筆記試験</li> </ol>	<p>講義・演習</p> <p>講義・演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>演習</p> <p>演習</p>	
教科書	基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社		
参考書	はじめてのフィジカルアセスメント メヂカルフレンド社		
評価の方法	筆記試験80点、技術試験20点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員がヘルスアセスメントについて教育する科目		



学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	地域の暮らしを支える看護職
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験5年)	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 地域で暮らす人々が健康を維持・増進するための看護職の役割を理解する。</p> <p><b>【概要】</b> 地域で暮らす人々の健康の維持・増進を支援する看護職の役割を理解する内容とする。また、疾病や障害、加齢などで暮らしにくさを感じている人が、自立して地域で暮らすことができるような支援体制を知り、そこに関わる看護職の役割を理解する。</p>		
授業計画	<p>第1回 地域における暮らしを支える看護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域・在宅に関わる制度とその活用</li> <li>・地域での暮らしにおけるリスクと対策</li> </ul> <p>第2回 地域・在宅看護実践の場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな場・さまざまな職種で支える地域での暮らし</li> <li>・地域・在宅における時期別の看護</li> </ul> <p>第3・4・5回 グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健センターの看護職の活動と役割</li> <li>・地域包括支援センターでの看護職の活動と役割</li> <li>・訪問看護ステーションの看護師の活動と役割</li> <li>・通所サービス・短期入所サービスでの看護師の活動と役割</li> <li>・施設サービスでの看護師の活動と役割</li> <li>・看護小規模多機能型介護の看護師の活動と役割</li> <li>・外来の看護師の活動と役割</li> <li>・退院支援、退院調整での看護師の活動と役割</li> </ul> <p>第6回 グループワーク発表</p> <p>第7回 まとめ</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	地域・在宅看護の基盤 (地域・在宅看護の基盤1) 地域・在宅看護の実践 (地域・在宅看護の基盤2)	医学書院 医学書院	
参考書			
評価の方法	授業参加度、課題、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が地域の暮らしを支える看護職について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	在宅における生活援助と医療処置
担当者 資格、役職等	看護師 専任教員（臨床経験5年）	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 地域で暮らす療養者に対する生活援助と特殊な医療処置について理解する。</p> <p>【概要】 地域で暮らす療養者の生活に合わせた生活援助の在り方を学ぶ。また在宅療養に必要な医療機器を知り、療養者および家族とともに管理できる知識・技術を身につける。</p>		
授業計画	<p>第1回 暮らしを支える看護技術</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしの場で看護するためのこころ構え</li> <li>・環境調整、食生活、排泄、清潔</li> </ul> <p>第2・3回 移動に関する技術（身体機能の低下を予防する）福祉用具・住宅改修 *サクラケアの見学含む</p> <p>第4回 食生活に関する技術；経管栄養 在宅中心静脈栄養</p> <p>第5回 排泄に関する技術；膀胱留置カテーテル ストーマ管理 腹膜透析</p> <p>第6回 呼吸に関する技術；HOT NPPV TPPV</p> <p>第7回 経管栄養・吸引（演習）</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	地域・在宅看護の基盤（地域・在宅看護の基盤1） 地域・在宅看護の実践（地域・在宅看護の基盤2）	医学書院 医学書院	
参考書			
評価の方法	授業参加度、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	訪問看護師と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が在宅における生活援助と医療処置について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	多職種協働
担当者 資格、役職等	教務主任（臨床経験15年） 専任教員（臨床経験5年）	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 地域で暮らす人々を支えるために多職種で連携・協働する力を身につけ、地域の暮らしを支える実践プロセスを学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 多種多様な場において、あらゆるライフステージ、あらゆる健康段階にある対象を支援するためには、多職種で連携・協働することが必要であることを理解し、実践できる知識・技術・態度を身につける内容とする。また、訪問看護における看護過程を理解し実践できる基礎を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1・2回 多職種協働とは 多職種連携・協働の意義と目的 地域・在宅における多職種連携・協働、看護師の専門性</p> <p>第3・4階 多職種の理解 ケアマネジャーの責務・役割・看護職との連携・協働 介護職員（介護福祉士）の責務・役割・看護職の連携・協働 リハビリ職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の責務・役割・ 看護職との連携・協働</p> <p>第5・6・7回 看護の専門性を踏まえた支援と多職種連携・協働</p> <p>第8回 地域・在宅看護過程の概要（訪問看護の看護過程）</p> <p>第9～14回 事例を通して、在宅での看護展開を理解する。</p> <p>第15回 試験、まとめ</p>		
教科書	地域・在宅看護の基盤（地域・在宅看護の基盤1） 地域・在宅看護の実践（地域・在宅看護の基盤2）	医学書院 医学書院	
参考書			
評価の方法	授業参加度・筆記試験・課題 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ教務主任と専任教員が多職種協働について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	健康な暮らしを支える学習支援
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験5年)	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 様々な対象に対する患者教育・指導方法の知識・技術を身につける。</p> <p><b>【概要】</b> 社会の変化に伴い、ライフスタイルの多様化、慢性疾患の増加、入院期間の短縮化が進む中、看護における患者教育・指導は重要な意味を持つようになってきている。様々な発達段階にある人々に対して健康教育を行い、その人の自立を支援するための学習支援技術を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1～2回 看護における学習支援とは 学習理論・学習支援の場とその方法 対象の発達段階に合わせた学習支援 小児・成人・老年期</p> <p>第3～4回 学習理論を用いてグループワーク (個人への学習支援)</p> <p>第5～7回 学習理論を用いて、発達段階や対象に合わせた学習支援について グループワークと発表 (集団への学習支援)</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	ナーシンググラフィカ 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版		
参考書	系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ メヂカルフレンド社 医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 医歯薬出版株式会社		
評価の方法	授業参加度、課題提出、筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が健康な暮らしを支える学習支援について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験5年)	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>1 がんの治療処置を軸に、周手術期の患者の特徴と看護について理解することができる。</p> <p>2 化学療法・放射線療法をうける患者の看護について理解することができる。</p> <p>【概要】</p> <p>がんの治療処置の視点から、患者の特徴と看護を学び、周手術期の事例を通してアセスメントについて理解を深める。</p>		
授業計画	<p>第1回 がんの治療と看護</p> <p>第2回 化学療法を受ける患者の看護</p> <p>第3回 放射線療法を受ける患者の看護</p> <p>第4回 手術療法を受ける患者の看護 ①手術療法の特徴と基礎知識</p> <p>第5回 " ②麻酔・手術侵襲と生体反応</p> <p>第6回 " ③術前の患者の看護</p> <p>第7回 【演習】酸素療法・酸素ボンベ・吸入</p> <p>第8回 手術療法を受ける患者の看護 ④術中の患者の看護</p> <p>第9回 " ⑤術直後の患者の看護</p> <p>第10回 " ⑥術後の患者の看護</p> <p>第11回 【演習】膀胱留置カテーテルの管理・点滴をつけている患者の寝衣交換 ※術後の患者におけるシミュレーション演習</p> <p>第12回 【事例展開】Medli-EYE (胃がん)</p> <p>第13回 "</p> <p>第14回 " (胃がん関連図 グループワーク)</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 メディカ出版		
参考書	高齢者と成人の周手術期看護 術中/術後の生体反応と急性期看護 (医歯出版株式会社) メディックメディア 看護がみえるVol.2臨床看護技術		
評価の方法	授業参加度・課題提出・事例課題20点・筆記試験80点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	看護師・看護師・理学療法士 専任教員（臨床経験16年）	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>呼吸機能障害・循環機能障害における患者の、症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 1. 呼吸機能障害をもつ成人の看護</p> <p>1) 呼吸機能障害と日常生活</p> <p>第2回 2) 呼吸機能障害の症状と看護</p> <p>第3回</p> <p>第4回 3) 呼吸機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第5回 トピックス：呼吸リハビリテーションの実際</p> <p>第6回 4) 呼吸機能障害のある患者の看護</p> <p>事例：肺がん</p> <p>第7回 2. 循環機能障害をもつ成人の看護</p> <p>1) 循環機能障害と日常生活</p> <p>第8回 2) 循環機能障害の症状と看護</p> <p>第9回 3) 循環機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第10回 4) 循環機能障害のある患者の看護</p> <p>第11回 事例展開：（心不全）</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 //</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学② 呼吸器</p> <p>成人看護学③ 循環器 メヂカルフレンド社</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度 課題 筆記試験</p> <p>配点：呼吸・リハ40点、循環器40点、事例展開20点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>認定看護師、看護師及び理学療法士、また看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅲ
担当者 資格、役職等	看護師・看護師 看護師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>消化吸収機能障害・栄養代謝機能障害・血糖調整機能障害における患者の、症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 1. 消化吸収機能障害をもつ成人の看護</p> <p>1) 消化吸収機能障害と日常生活</p> <p>第2回 2) 消化吸収機能障害の症状と看護</p> <p>第3回 3) 消化吸収機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第4回 4) 消化吸収機能障害のある患者の看護</p> <p>第5回 トピックス：ストーマケアの講義と演習</p> <p>第6回 //</p> <p>第7回 2. 栄養代謝機能障害を持つ成人の看護</p> <p>1) 栄養代謝機能障害と日常生活</p> <p>第8回 2) 栄養代謝機能障害の症状と看護</p> <p>第9回 3) 栄養代謝機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第10回 4) 栄養代謝機能障害のある患者の看護</p> <p>第11回 3. 血糖調節機能障害をもつ成人の看護</p> <p>1) 血糖調節機能障害と日常生活</p> <p>第12回 2) 血糖調節機能障害の症状と看護</p> <p>第13回 3) 血糖調節機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第14回 4) 血糖調節機能障害のある患者の看護</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学⑤ 消化器 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学⑧ 内分泌/栄養代謝 メヂカルフレンド社</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度、課題、筆記試験</p> <p>配点：消化吸収機能障害40点、栄養代謝機能障害30点 血糖調節機能障害30点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>看護師が成人看護学援助論について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論IV
担当者 資格、役職等	看護師・看護師 専任教員（臨床経験15年）	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>脳神経機能障害・PH調節機能障害・身体防御機能障害における患者の症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 1. 身体防御機能障害をもつ成人の看護 1) 身体防御機能障害と日常生活</p> <p>第2回 2) 身体防御機能障害の症状と看護</p> <p>第3回 //</p> <p>第4回 3) 身体防御機能障害の検査・治療・処置と看護</p> <p>第5回 2. 脳神経機能障害をもつ成人の看護 1) 脳神経機能障害と日常生活</p> <p>第6回 2) 脳神経機能障害の症状と看護</p> <p>第7回 3) 脳神経機能障害の検査・治療・処置を伴う看護</p> <p>第8回 4) 脳神経機能障害のある患者の看護 【事例】くも膜下出血の急性期、脊髄損傷 危機と病気の受容</p> <p>第9回 //</p> <p>第10回 3. PH調節機能障害をもつ成人の看護 1) PH調節機能障害と日常生活</p> <p>第11回 2) PH調節機能障害の症状と看護</p> <p>第12回 3) PH調節機能障害の検査・治療・処置に伴う看護</p> <p>第13回 トピックス：血液透析</p> <p>第14回 4) PH調節機能障害のある患者の看護 【事例】慢性腎不全 血液透析</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学⑥ 脳・神経 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学⑦ 腎・泌尿器 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学④ 血液・造血器 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学⑨ 感染症／アレルギー・免疫／膠原病 メヂカルフレンド社</p>		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度、課題、筆記試験</p> <p>配点：PH調節機能障害30点、脳神経機能障害40点、身体防御機能障害30点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>看護師および看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目</p>		



学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	成人看護学援助論Ⅴ
担当者 資格、役職等	看護師・看護師・看護師 専任教員（臨床経験8年）	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 成人期に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。エンドオブライフケアが必要な患者の特徴を理解し、看護について学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 性機能障害における患者の症状とアセスメントの視点と看護、治療処置と看護、事例を通して機能障害のある患者の看護を学ぶ。 エンドオブライフケアが必要な患者とその家族が「その人らしく生きる」ことを支えるために必要な看護を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 1. 性機能障害をもつ成人の看護 1) 性機能障害と日常生活</p> <p>第2回 2) 性機能障害の症状と看護</p> <p>第3回 3) 性機能障害のある患者の検査・治療・処置を伴う看護</p> <p>第4回 4) 性機能障害のある患者の看護 事例：乳癌、前立腺肥大</p> <p>第5回 2. 終末期（エンドオブライフ）の基礎知識</p> <p>第6回 1) エンドオブライフケアとは 終末期とは エンドオブライフケアにおける生命倫理 患者の権利と意思決定支援</p> <p>第7回 2) 病態的特徴と看取りのケア エンドオブライフの病の軌跡</p> <p>第8回 臨死期の特徴と身体的ケア</p> <p>第9回 がん性疼痛のマネジメントとケア</p> <p>第10回 臨死期の心肺蘇生とDNAR</p> <p>第11回 エンゼルケア</p> <p>第12回 3) 全人的ケア 患者の心理</p> <p>第13回 トータルペイン</p> <p>第14回 <b>【演習】</b> ハンドマッサージ エンドオブライフの生活環境、家族ケア・遺族ケア（グリーフ）</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	<p>成人看護学⑦ 腎・泌尿器 メヂカルフレンド社</p> <p>成人看護学⑩ 女性生殖器 メヂカルフレンド社</p> <p>エンドオブライフケア看護学 基礎と実践 ニューヴェルヒロカワ</p>		
参考書			
評価の方法	<p>筆記試験</p> <p>配点：性機能障害30点、エンドオブライフケア70点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>看護師および認定看護師、看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が成人看護学援助論について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	老年看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	看護師・看護師・看護師 専任教員（臨床経験15年）	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 高齢者特有の症候とその看護の理解について学ぶ。また、加齢による機能低下を合わせた看護の方法を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 高齢者の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的アセスメントについて学習する。老年期の患者を持つ家族の理解、療養生活の支援、高齢者のリスクマネジメントについて学ぶ。高齢者の疾患の特徴と看護については、成人期の学習を踏まえ 加齢変化・病・障害を併せ持つ高齢者の看護について学ぶ。 高齢者の生活機能を維持するためのリハビリテーションやQOLを維持した生活が送れるような援助方法について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 高齢者に特有な症候のアセスメントと看護①</p> <p>第2回 高齢者に特有な症候のアセスメントと看護②</p> <p>第3回 高齢者の生活・療養の場における看護 (ヘルスプロモーション・保健医療福祉施設及び移住環境)</p> <p>第4回 生活・療養の場における看護 (家族の看護)</p> <p>第5回 高齢者のリスクマネジメント (医療安全) (救命・災害)</p> <p>第6回 高齢者の疾患の特徴と看護① 1) 循環・呼吸器系疾患の症状と看護</p> <p>第7回 循環・呼吸器系疾患の症状と看護</p> <p>第8回 循環・呼吸器系疾患の症状と看護</p> <p>第9回 2) 消化器系、内分泌・代謝系疾患の症状と看護</p> <p>第10回 消化器系、内分泌・代謝系疾患の症状と看護</p> <p>第11回 3) 生活機能維持のためのリハビリテーション 口腔機能と栄養サポート (NST)</p> <p>第12回 4) 自己免疫疾患・血液疾患・腎泌尿器系疾患の症状と看護</p> <p>第13回 5) 身体防御機能障害の症状と看護</p> <p>第14回 身体防御機能障害の症状と看護</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度 筆記試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師、専門看護師、認定看護師と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	老年看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	看護師・看護師・看護師 看護師・理学療法士 専任教員（臨床経験14年）	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>高齢者特有の症候とその看護の理解について学ぶ。また、加齢による機能低下を合わせた看護の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>高齢者の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的アセスメントについて学習する。          高齢者の疾患の特徴と看護については、成人期の学習を踏まえ、高齢者の特徴である感覚器、脳神経、運動機能特有の疾患と看護を学ぶ。          高齢者の生活機能維持として、リハビリテーションやQOLを維持した生活が送れるよう援助方法について学ぶ。また、生活機能維持の看護を基盤とした治療を必要とする高齢者の看護についても学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 高齢者の疾患の特徴と看護②</p> <p>1) 感覚器疾患の症状と看護</p> <p>第2回 感覚器疾患の症状と看護</p> <p>第3回 2) 運動機能障害の症状と看護</p> <p>第4回 運動機能障害の症状と看護</p> <p>第5回 3) 生活機能維持のためのリハビリテーション「ROM」</p> <p>第6回 生活機能維持のためのリハビリテーション 「褥瘡予防とポジショニング」</p> <p>第7回 4) 脳神経疾患の症状と看護</p> <p>第8回 脳神経疾患の症状と看護</p> <p>第9回 5) 認知機能障害のある高齢者の看護</p> <p>第10回 認知機能障害のある高齢者の看護</p> <p>第11回 認知機能障害のある高齢者の看護</p> <p>第12回 認知機能障害のある高齢者の看護</p> <p>第13回 治療を必要とする高齢者の看護（入院・手術・リハビリテーション）</p> <p>第14回 治療を必要とする高齢者の看護（検査・薬物）</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論 医学書院		
参考書			
評価の方法	授業参加度、筆記試験 配点：感覚機能障害40点、脳神経疾患・認知機能障害40点、 治療を必要とする高齢者の看護20点 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	認定看護師、看護師、理学療法士およびが看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	老年看護学援助論Ⅲ
担当者	大学助教	履修年次	2年次
資格、役職等	専任教員（臨床経験10年）	及び学期	後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b></p> <p>老年期にある対象をとりまく環境や社会を理解し、事例をもとに高齢者の特徴を踏まえ看護の展開をするための方法を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b></p> <p>老年看護学概論、老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱをふまえ、ペーパーペイシェントで事例を展開する。また、健康障害を持つ高齢者への看護のあり方や施設での生活環境について学習する。</p> <p>対象となる高齢者とその家族がよりよい死を迎えるための看護について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 エンドオブライフ（意思決定・死の準備・尊厳死・安楽死）</p> <p>第2回 エンドオブライフ（看取り・家族との関わり）</p> <p>第3回 事例展開（認知機能障害のある人との関わりに向けて事前学習）</p> <p>第4回 健康障害をもつ高齢者の施設での生活環境を知る。（施設見学実習）</p> <p>第5回 //</p> <p>第6回 事例展開（グループワーク）</p> <p>第7回 事例展開（グループワーク・まとめ）</p> <p>第8回 事例展開（全体発表）</p>		
教科書	<p>系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患論 医学書院</p>		
参考書			
評価の方法	<p>ルーブリック評価（別紙 評価表）</p> <p>合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>大学助教と看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が老年看護学援助論について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	専任教員 (臨床経験11年)	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>健康状態にある小児期の対象とその家族を理解し、子どもの基本的特性を押さえ、健康段階に応じた看護を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>患児の理解、患児を持つ家族の理解、健康段階別看護、症状別看護を学ぶ。患児がどのように疾病を受け止め、疾病に対応して回復過程をたどるのか、また、発達に及ぼす影響は何かを理解し、様々な健康状態にある子どもとその家族への看護ケアを学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 子どもの病気の理解 子どもが入院している環境、入院している子どもを持つ家族への看護</p> <p>第2回 検査・処置の看護</p> <p>第3回 症状別看護 一般状態・発熱・脱水など</p> <p>第4回 急性期にある子どもと家族</p> <p>第5回 周手術期にある子どもと家族、痛みのある子どもと家族</p> <p>第6回 慢性期にある子どもと家族</p> <p>第7回 子ども特有の看護技術の実際、バイタルサイン測定など</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	<p>小児看護学① 小児看護学概論 小児保健 メヂカルフレンド社</p> <p>小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メヂカルフレンド社</p>		
参考書			
評価の方法	<p>筆記試験・出席状況・演習参加度 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	<p>看護師として病院での臨床経験を持つ専任教員が小児看護学援助論について教育する科目</p>		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師 医師	履修年次 及び学期	2年次 後 期
単位数	1 単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】</p> <p>小児科に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>小児の機能障害の症状・検査・治療、主な疾患について理解し、患児への看護の基礎知識を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 呼吸機能障害（感染症含む）</p> <p>第2回 循環機能障害（感染症含む）</p> <p>第3回 消化・吸収機能障害（感染症含む）</p> <p>第4回 内分泌機能障害 免疫異常(アレルギー・自己免疫疾患)</p> <p>第5回 血液・腫瘍・腎・泌尿器疾患</p> <p>第6回 中枢神経疾患・運動器疾患</p> <p>第7回 先天異常・新生児</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	小児科医師が小児看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	小児看護学援助論Ⅲ
担当者 資格、役職等	大学助教、看護師 看護師・看護師・看護師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 小児に特有な機能障害の特徴を理解し、看護を展開するための方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 小児期に特徴的な機能障害をとりあげ、発達への援助と家族への支援を包括した看護のあり方を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>(4回) 循環機能障害看護 (先天性心疾患、川崎病他) 血糖調節機能障害看護 (糖尿病) 身体防御機能障害看護 (白血病) PH調節機能障害看護 (ネフローゼ症候群)</p> <p>(2回) NICUの看護</p> <p>(1回) 心身、発達障害看護</p> <p>(4回) 呼吸機能障害看護 (肺炎の種類、喘息、気管支炎など) 脳神経機能障害看護</p> <p>(2回) 悪性腫瘍</p> <p>第14回 試験</p> <p>・高度医療の現場を知る (2年次 長野県立こども病院見学)</p>		
教科書	小児看護学② 健康障害を持つ小児の看護 メヂカルフレンド社		
参考書			
評価の方法	<p>授業参加度・筆記試験・課題評価 配点：循環・血糖調整・身体防御・PH調節機能障害・NICU 50点 呼吸・脳神経機能障害・悪性腫瘍 50点 合計60点以上を合格とする。</p>		
授業科目 の教育内容	大学助教、大学非常勤講師、看護師が小児看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	母性看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	助産師 専任教員（臨床経験22年）	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 妊娠期・分娩期にある対象を理解し、対象が健康な妊娠期を送り、安全安心な分娩を迎えるための看護を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 女性のライフサイクルの中で身体・心理・社会的な変化が特に激しいマタニティーサイクルについて母性看護学援助論で学習する。 援助論 I では、マタニティーサイクルの妊娠期・分娩期にある対象を3側面から捉え、必要な看護について学習する。母性看護学を学んでいくうえで、女性の体の中で日々成長発達していく胎児についても母体とともに捉えていかなければならない。2つの命を同時に捉えることができ、安全安心な分娩を迎えられるためにどのような看護が必要か考える。 また、異常妊娠・分娩の看護について臨地実習で遭遇しそうなハイリスク妊娠について、病態生理を踏まえながら、学習する。</p>		
授業計画	<p>第1回 妊娠とは 妊娠期における母体の生理的变化</p> <p>第2回 胎児の生理的变化 胎盤と羊水の機能</p> <p>第3回 妊娠期の心理・社会的特徴</p> <p>第4回 妊娠期の観察とアセスメント 妊娠初期の妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第5回 妊娠中期の妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第6回 妊娠末期の妊婦健康診査と保健指導</p> <p>第7回 ハイリスク妊娠への看護 帝王切開術を受ける母子への看護</p> <p>第8・9回 分娩とは 分娩3要素 正常分娩の経過 産婦と胎児・家族のアセスメント</p> <p>第10・11回 分娩各期の産婦とその家族への看護</p> <p>第12回 異常経過のみられる産婦の看護</p> <p>第13・14回 妊娠・分娩期の看護の実際（演習）</p> <p>第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院		
参考書	病気が見える 10 「産科」 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院		
評価の方法	筆記試験・出席状況・演習参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	助産師及び助産師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学援助論について教育する科目		



学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 妊娠、分娩、産褥期および新生児の異常経過の学習を通じて母性看護の重要性を学ぶ。</p> <p>【概要】 不妊治療の実際を学ぶことにより、妊娠生理の理解を深める。医師の診察が求められる異常妊娠、分娩、産褥について医師の立場から解説し、それぞれの対象に対しどのような看護が求められるか一緒に考える。</p>		
授業計画	<p>第1回 出生前診断、不妊症の診療</p> <p>第2回 妊娠の異常 ハイリスク妊娠・DM合併・心疾患・血液疾患</p> <p>第3回 妊娠の異常 感染症・妊娠悪阻・妊娠高血圧症</p> <p>第4回 妊娠の異常 多胎妊娠・流早産・子宮外妊娠</p> <p>第5回 分娩の異常 分娩3要素の障害</p> <p>第6回 分娩の異常 帝王切開・吸引分娩・分娩時の出血</p> <p>第7回 産褥の異常、新生児の異常 産後出血・分娩外傷・子宮復古不全 精神障害・新生児仮死・低体重児</p> <p>第8回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院		
参考書			
評価の方法	試験、出席日数、授業態度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	産婦人科医師が母性看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	母性看護学援助論Ⅲ
担当者 資格、役職等	助産師 専任教員（臨床経験22年）	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 産褥期・新生児期にある対象の特徴を理解し、対象がもてる力を最大限活用でき、良好な生活を送るための看護を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 産褥期と新生児における看護を学習する。産褥期は、分娩を終えた身体が、乳汁分泌などの新たな身体的変化と非妊娠時の状態に戻っていく変化を伴いながら、褥婦と児との愛情と情緒をより強く形成し、母親として適応していく段階である。ここでは、褥婦が身体的・心理的・社会的にも良好に産褥期を経過し、これからの育児に向かうために必要な支援を学ぶ。新生児は、新生児の形態・機能的理解をし、この時期を良好に経過するために必要な支援を学ぶ。また、産褥期・新生児を理解するために、愛着形成過程・親役割獲得過程を支える援助について学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 産褥とは 第2回 産褥期の身体・心理・社会的特徴 第3回 新生児とは 第4回 新生児の特徴・母子相互作用 第5回 産褥期・新生児の観察とアセスメント 第6回 事例展開 第7回 〃 第8回 〃 第9回 〃 第10回 母と子に対する支援とその実際 第11回 〃 第12回 母と子に必要な看護援助の実際（演習） 第13回 〃 第14回 褥婦への保健指導（グループワーク） 第15回 試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院		
参考書	病気が見える10 「産科」 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院		
評価の方法	筆記試験・提出課題・出席状況・演習及びグループワークの参加度から総合的に評価。 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	助産師及び助産師として病院での臨床経験を持つ専任教員が母性看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論 I
担当者 資格、役職等	看護師	履修年次 及び学期	2年次 前期
単位数	1 単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b> 精神障がいのある対象とその家族を理解し、問題状況への介入から地域社会生活への適応に向けた精神看護援助技術および精神障がいとその家族や周囲を対象とした様々な援助技法(あるいは回復を助ける方法)を学ぶ。</p> <p><b>【概要】</b> 精神障がいのある対象への看護を総論的に学ぶ。精神看護学において看護の核は感情であり、その感情を手がかりにして自己のコミュニケーションを振り返り、自己洞察すると共に看護援助に必要な自己活用について考えることを学ぶ。また、身体と「こころ」は密接なつながりを持ち、精神看護学においても身体をアセスメントシケアする知識と技術を学ぶ。精神障がいのある対象は、自由や権利を制限せざるをえない状況があり、精神障がいのある対象の尊厳をどう守るのか考えを深め学びます。</p>		
授業計画	<p>第1回 「こころ」を病むとはどんなことか</p> <p>第2回 ケアの間関係：ケアの前提・原則・ケアの方法</p> <p>第3回 ケアの間関係：関係のアセスメント（プロセスレコード）</p> <p>第4回 ケアの間関係：「患者－看護師関係」の構築</p> <p>第5回 入院治療と看護の役割①：治療的環境</p> <p>第6回 入院治療と看護の役割②：人権と安全を守る</p> <p>第7回 精神科治療と看護の役割①：精神科における倫理的葛藤</p> <p>第8回 精神科治療と看護の役割②：薬物療法・心理療法・集団療法</p> <p>第9回 地域における看護の役割①：地域精神保健福祉と社会参加とその課題</p> <p>第10回 地域における看護の役割②：地域生活支援の実際</p> <p>第11回 精神障がいのある対象の家族（大切な人）への看護</p> <p>第12回 精神科以外での看護師の役割①：リエゾン精神看護</p> <p>第13回 精神科以外での看護師の役割②：災害と精神看護、司法精神医学</p> <p>第14回 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス</p> <p>第15回 単位認定試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野 精神看護学(1) 精神看護の基礎 精神看護学(2) 精神看護の展開 医学書院		
参考書	武井麻子 精神看護学ノート 医学書院 他適宜提示します		
評価の方法	筆記試験・レポート・課題・授業参加度 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師が精神看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義
分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論Ⅱ
担当者 資格、役職等	医師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	15時間
授業目標 及び概要	<p>【目標】 精神機能障害の症状・診断と検査・主な精神障害について理解する。</p> <p>【概要】 精神の機能障害の症状、主な疾患について理解し、対象への看護の基礎知識を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回：精神症状</p> <p>第2回：中枢神経症状</p> <p>第3回：精神障害の診断と検査の種類</p> <p>第4回：各種治療法</p> <p>第5回：主な疾患の診療①</p> <p>第6回：主な疾患の診療②</p> <p>第7回：主な疾患の診療③</p> <p>第8回：試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野	精神看護学(1) 精神看護学(2)	精神看護の基礎 精神看護の展開 医学書院
参考書			
評価の方法	授業参加度・試験 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	精神科医師が精神看護学援助論について教育する科目		

学科	第1看護学科	授業の方法	講義・演習
分野	専門分野	授業科目	精神看護学援助論Ⅲ
担当者 資格、役職等	看護師 看護師	履修年次 及び学期	2年次 後期
単位数	1単位	時間数	30時間
授業目標 及び概要	<p><b>【目標】</b>  1. 生物学的・心理学的・社会文化的から対象を理解する。  2. 精神症状により影響を受けている対象の状態を3つの視点からアセスメントし、その人らしく生きる力を支えるための看護について理解する。</p> <p><b>【概要】</b>  事例から精神障がい、精神症状により日常生活に支障をきたしている対象の「こころ」の健康をアセスメントする。対象の発達段階や生活様式、生活史、社会背景や環境など様々な危機やストレスと関連させ対象の理解を深める。</p>		
授業計画	<p>1. 精神障がいのある対象が抱える日常生活に支障をきたす症状の看護  第1回 看護のプロセス  第2回～第7回 各障がいの症状と看護  思考の障がい  感情の障がい  意欲の障がい  知覚の障がい  意識の障がい  記憶の障がい</p> <p>2. 看護過程  第8回～第12回  精神症状のある患者の看護過程(個人・グループワーク)  事例:統合失調症・双極性障害</p> <p>第13・14回  精神機能障がいのある患者の援助技術としてのコミュニケーション</p> <p>第15回 単位認定試験</p>		
教科書	系統看護学講座 専門分野	精神看護の基礎 精神看護の展開	精神看護学 (1) 精神看護学 (2) (医学書院)
参考書	適宜紹介します		
評価の方法	筆記試験・課題・授業参加度から総合的に評価 合計60点以上を合格とする。		
授業科目 の教育内容	看護師が精神看護学援助論について教育する科目		